



自治体国際化フォーラム
CLAIR FORUM

Let's meet again
2年後にまた会いま
ZOOM UP

アートを通じた 国際交流

International Exchange through Art



今月の表紙 山形国際ドキュメンタリー映画祭 2013 の
フェアウェル・パーティーにて

10

一般財団法人
自治体国際化協会

Oct. 2015 Vol.312



「武器をアートに」地域から モザンビークの平和構築を支える ～地域国際化推進アドバイザー派遣制度活用事例～

(一財)自治体国際化協会多文化共生部多文化共生課主事 加藤 康一郎

事例概要

平成 27 年 6 月 10 日 (水) に千葉県市川市にある千葉商科大学において、(一財)自治体国際化協会(クレア)が実施する「地域国際化推進アドバイザー派遣制度」を活用した講演会が市川市国際交流協会と千葉商科大学の共催で開催されました。

本講演会は、クレアの地域国際化推進アドバイザー(以下、アドバイザー)である NPO 法人えひめグローバルネットワーク代表理事の竹内よし子氏を講師としてお招きし、「武器をアートに」地域からモザンビークの平和構築を支える」と題し、地域から実践できる多文化共生や平和貢献活動について市民と学生が共に学ぶことを目的に、産学連携により開催したものです。大学の講義の一環として開催されたこともあり、学生および一般市民合計で約 1,000 名が参加する大規模なものとなり、千葉商科大学で最も広い教室が満員になりました。

竹内よし子氏は、愛媛県出身で、1998 年 4 月に「えひめグローバルネットワーク」を設立し、2005 年 10 月に NPO 法人化しました。長年、モザンビークへの支援をはじめ、「国際協力事業」・「環境保全事業」・「ESD(持続可能な開発のための教育)事業」・「ネットワーク事業」の 4 つの事業を柱として、持続可能な社会の実現に向けて、地域に根ざし、そして、グローバルな視点をもってさまざまな活動を行っています。



講演会当日の会場内の様子。会場が満員になるほどの盛況ぶり

平和構築に向けた取り組み ～モザンビークの武器をアートへ～

講演テーマである「モザンビーク」は、アフリカ大陸の南東部に位置し、1975 年にポルトガルから独立後、内戦が勃発し、この内戦は 1992 年の和平協定まで 17 年の長きにわたり続きました。内戦終結後、平和構築のため、民間に残された大量の武器を農具や自転車などに交換して武装解除を進め、その回収された武器の一部を用いてアート作品を制作するという取り組みが進められました。

この取り組みを知った竹内氏は支援を開始しました。これらの作品は高く評価され、大英博物館や大阪府にある国立民族学博物館に収蔵されました。また、武器との交換に活用するため、松山市内の放置自転車を NPO や NGO に無償譲渡できるよう松山市に提言しました。そうした竹内氏の努力が奏功し、市民と一丸となり、7 回にわたって計 660 台もの自転車をモザンビークへ送ることができました。

講演会場には、実際に武器から作られたアート作品が展示され、直に触れることもできました。決して大きな作品ではありませんでしたが、持つとずっしりとした重みと金属特有の冷たさを感じました。また、遠くからでは、本当に武器を材料に作られているか一見分かりませんでした。間近で見ると銃口や引き金のようなものがついており、過去に戦争の道具として使用されたのだと実感しました。



武器から作られたアート作品の一例



講演会に参加して

講演では、竹内氏が撮影したモザンビークの映像を交えながら現在の状況が紹介されました。内戦終結から20年あまり経て、首都マプトは年7%以上の経済成長率で目覚ましい発展を遂げている一方で、地方では未だ他のアフリカ農村地域と同様に厳しい生活を強いられています。竹内氏が支援する村へ車で移動する映像が流れましたが、車が上下左右に大きく振動し、非常に悪路であることが分かりました。竹内氏の話では、性能・耐久性に優れた日本車でも日本で使用する条件とはあまりにも異なるため、現地では長く乗り続けるのは困難だそうです。そのような道路や水・電気などの生活インフラ整備が遅れている貧困層が住む村で、竹内氏は村人の収入源確保のためにミシンを用いた縫製訓練プロジェクトを実施しています。慣れない手つきながら真剣に作業に取り組む村人の姿が印象的でした。

講演会に参加して感じたことが二点あります。

まず、竹内氏は、講演で「モザンビークから「平和」を輸出してほしい」と語っていました。食糧ではなく、石油・石炭といった資源でもなく、そして、もちろん武器でもなく「平和」を輸出してほしいとは、長年モザンビークをみつめ、戦争が与えるものと奪うものをみてきた竹内氏だからこそ言えることだと感じました。日本から遥か遠く離れた異国の地に向けられた竹内氏の願いを、講演会に参加した皆さんはどのように感じたのでしょうか。

次に、今回の講演会は、地域と大学（研究・教育機関）が連携して多文化共生、国際協力の推進に取り組む事例となりました。参加された市民の方からは「大学生と学ぶことができよかった」といった感想があり、普段あまり交流することがない市民と大学生が共に学び、考える機会を提供できました。また、地方公共団体や地域国際化協会が主催し、社会人を対象とした研修会などでの



竹内よし子氏による講演の様子

アドバイザー制度の利用が多い中で、今後社会で活躍する大学生に向けての講演会において、本制度を利用していただけただけことは非常に有意

義であったと感じました。

「地域国際化推進アドバイザー派遣制度」の積極的なご活用を！

クレアでは、多文化共生や国際協力分野で専門的な知識や経験を有する有識者などをアドバイザーとして登録し、多文化共生や国際協力推進のための研修会や講演会などを実施する地方公共団体や地域国際化協会などに対し、アドバイザーを派遣しております。

この制度は、リピート率が高く（平成26年度に利用のあった54団体のうち前年度にも利用されたのは29団体、リピート率は約50%）、一度ご利用いただければ、簡単な手続きと費用負担が少ない形で優秀なアドバイザーに来ていただける制度であることがお分かりいただけます。これから、多文化共生、国際協力の推進に向けた取り組みを行っていかうとお考えの地方公共団体や地域国際化協会などにおいては、是非、本制度の活用をご検討ください。また、今回紹介した大学のほか、小学校・中学校・高校のような教育機関での活用も積極的に進めていきたいと考えています。総合学習の時間や保護者も参加する講演会など、さまざまな場所へアドバイザーを派遣することが可能です。多文化共生という地域で実践していくべき課題であるからこそ、これからの地域社会を担っていく子どもたちが学び、そして考える機会を設けてみてはいかがでしょうか。これまで、多文化共生、国際協力の推進のための研修会などを開催したことがなく、どのような研修内容にすればよいのかアイデアがない場合には、企画段階からご相談に応じます。

本制度の利用、活用方法などについてご不明な点がございましたら、ぜひクレア多文化共生部までお尋ねください。

クレア多文化共生部地域国際化推進アドバイザー派遣制度ホームページ・連絡先

<http://www.clair.or.jp/j/multiculture/sokushin/advisor.html>

TEL : 03-5213-1725 E-mail : tabunka@clair.or.jp

(*）地域国際化推進アドバイザー派遣制度は、通年で申請を受け付けていますが、申請状況に応じて年度途中で申請を締め切る可能性がございます。本制度活用を検討されている場合には、お早めにご相談ください。